

月刊 やちまなこ

2023. 7.15 発行

No.308

7月号

釧路湿原国立公園 塘路湖エコミュージアムセンター（あるこっと）だより



釧路湿原が日本で初めてラムサール条約湿地に登録されたのは、もう 43 年も昔のことである。

その 13 年後、1993 年に今度は締約国会議が釧路で行われた。所謂「釧路会議」である。今年はその釧路会議が行われてからちょうど 30 周年にあたり、色々なイベントが行われている。

ノロッコ号は通常、釧路 - 塘路間を運行している観光列車であるが、今年 6 月のノロッコ号は、ラムサール条約締約国会議が釧路で行われた 6 月 10 日には、川湯駅まで延長運転された。



塘路フィールドノート【6/15~7/14】

【野鳥・哺乳類】

アオサギコロニーもどうやら子育てを終えて少し静かになってきたようだが、タンチョウの雛が上空を飛べるようになるのは、まだ少し先のようなのである。湿原は夏鳥真っ只中。そんな中、ちょっと毛色の違うキタキツネが現れた。



タンチョウ (コッタロ湿原)

子育ての季節。足元には雛が隠れていた。この時期は親鳥もあまり飛ばない。ツル科



コサメビタキ (コッタロ湿原)

森の中で見かけることが多いが、この個体は珍しく樹上で囀っていた。ヒタキ科



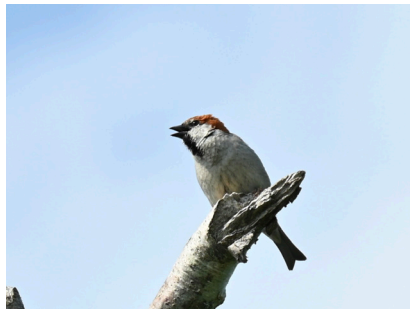
ツツドリ (クチャロ線)

「トトトト、トトト」と森に響く声で囀る。托卵をすることで知られる。カッコウ科



コヨシキリ (サルルン沼周辺)

近年、湿原でその姿を減らしているという野鳥。明瞭な黒白眉斑が特徴。ヨシキリ科



ニューナイスズメ (コッタロ湿原)

スズメに似るが雌雄異色。この個体は雄でスズメより明るい体色をしている。スズメ科



十字狐 (釧路湿原)

「十字狐」と呼ばれる黒毛のキツネが、湿原の森を歩いているのを二度目撃した。

【植物・菌類】

植物と昆虫の共生関係を感じる季節。自らの力で移動することができない植物や菌類（キノコ）は、花粉や胞子を昆虫によって拡散します。太古の昔より続く自然界の共生関係です。



エゾノレンリソウ (蝦夷連理草)
対生する葉が仲睦まじく並ぶことから連理草と呼ばれる。スイートピーに近い花。



ホザキシモツケ (穂咲下野)
湿原を代表する低木。ピンクの綿毛のような花を咲かせ夏を告げる。バラ科。



ハシドイ (丁香花)
「釧路市の木」ハシドイの花。「札幌の木」であるライラックに近いモクセイ科の花。



エゾスカシユリ (蝦夷透百合)
この時期、国道の路傍にもよく咲いているユリの花。花言葉は「飾らない美」ユリ科



ヌメリスギタケモドキ (滑杉茸擬)
ヤナギ類に寄生する菌類。その名の通り、表面にはヌメリがある。モエギタケ科。



タモギタケ (楡木茸)
ハルニレの倒木に生える美しいキノコ。独特の香りがある。ヒラタケ科。

【昆虫】

夏の釧路湿原は昆虫たちにとっても湿度が高く過ごしやすいようだ。夜にはヘイケボタルが夜空を舞うようになった。下のスジグロボタルは昼行性で夜はほとんど光らないが、翅に鮮やかな紅を纏う希少なホタルである。



ヤナゴトラカミキリ (塘路湖畔)
痕跡はあれど、実物には滅多にお目にかかれな
いカミキリムシ。樹皮と同化した地味な色あい。



エゾシロチョウ (塘路原野)
他のシロチョウと違い、幼虫は集団で過ごし
一斉に成虫へと羽化する。シロチョウ科。



スジグロボタル (釧路湿原)
湧水環境で暮らすホタルの仲間。ヘイケボタル
とは違い幼虫は半水生で水生貝類を捕食する。

◎新緑の湿原 野鳥観察会

この日は新緑のシラルトロ湖畔で野鳥観察会を実施いたしました。最初に参加者全員に目を閉じて貰い、何種類の野鳥の声が聴こえたかを各々に聞きました。蝶の森では、子育て中のエゾアカゲラを観察したり、遠くに聴こえる鳥の種類を解説しながら、カッコウやツツドリの托卵（別な小鳥の巣に卵を産みつけ、ヒナが孵ると本物の卵を落として自分だけが餌を貰えるようにしてしまうことなど）の話の聴いたり、最近、釧路湿原では減少傾向にあるというコヨシキリの囀りに耳を傾けたり、その姿を図鑑やチェックリストで追っていきました。この観察日は、釧路市でラムサール条約締結国会議が行われた30年前と同日付であり、その偶然を皆で祝いました。

確認種 21種類 参加者 15名



左：コヨシキリ 右：エゾアカゲラ

◎縄文時代の土器作りを体験しました

7月8日は標茶町立博物館との共催行事として、縄文土器を作るイベントを開催しました。午前中は、講師から塘路湖畔や茅沼の遺跡調査から出土した実際の土器を紹介され、参加者は実際に手に取りその硬さや模様の精巧さを感じた。デザインにもその時代の流行があり、作られた時代を読み取れるなど、考古学の面白さについて説明を受けて土器作りがスタート。当時の土器の作り方に沿い、円盤状の底を形成してから紐状の粘土を輪積みしながら隙間をなくしていく方法で進められ、2時間弱でおおよそ全体の形を作り上げました。

午後からは、黒曜石から作られた刃物や研磨された石器なども紹介され、参加者は実際に手に取って紙を切断し切れ味を体感した。次に土器の表面に模様をつける道具が紹介され、紐を擦(よ)って表面を転がすことで出来る模様や、木べらや木の枝、ホタテの貝殻などを使う模様が紹介され、参加者はそれぞれの好みや感性をフルに使って模様付けしました。出来上がった土器は、3週間ほどの自然乾燥を経て窯焼きして完成させます。

参加者 8名



8月の自然ふれあい行事

事前の申込が必要です。

夏休み 釧路湿原キノコ観察会

[日 時] 8月5日(土) 10時～12時

[定員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 茅沼 蝶の森

(集合場所は シラルトロ自然情報館 駐車場)

◎申込・問い合わせは塘路湖エコミュージアムセンターまで

夏休み！外来植物を探そう

[日 時] 8月6日(日) 10時～12時

[定員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンター
(0154-65-2323) まで

夏休み！ザリガニウォッチング

～ウチダザリガニ編～

[日 時] 8月20日(日) 10時～12時

[定員・参加料] 15名 無料

[開催場所] 温根内ビジターセンター

◎申込・問い合わせは温根内ビジターセンターまで

◆日出・日入時間 7/15(3:54,19:01). 7/30(4:09,18:47).8/14(4:25,18:26)

～指導員のひとり言～

■5月に新型コロナウイルスが5類に引き下げられて以降、当館を訪れる観光の利用者さんも、海外からお越しの方が増えてきている。

英語が苦手な私は、ipadの翻訳機能に頼りがちであるが、日本語の発音すら悪いのか、全然関係ない翻訳をされて、会話の相手を苦笑いさせることもしばしば。

苦笑いと笑顔は、世界共通のようです。

釧路湿原国立公園

塘路湖エコミュージアムセンター あること

☎ 088-2264 北海道川上郡標茶町塘路原野
TEL: 015-487-3003 FAX: 015-487-3004
E-mail: emc@kushiro-shitsugen-np.jp

Instagram  torokoemc

開館時間: 10:00～17:00

(11～3月: 16:00まで)

休館日: 毎週水曜日 12月29日～1月3日

入館無料